

平成 30 年度

社会福祉法人海士町社会福祉協議会 事業計画

# 平成 30 年度 社会福祉法人海士町社会福祉協議会 事業計画

テーマ One for all All for one 「一人はみんなのために みんなは一つの夢のために」

## 【基本方針】

平成 29 年度「地域に出かけ・人が繋がり・暮らしを支える」をテーマに活動してきた。地域調査や福祉学習、ボランティア受入れ等の強化を図り、出前サービス「こぞって」（毎週火曜日開催）、福祉従事者雇用促進拠点施設「チェダッテ」などの新規事業も展開した。10 月に第 3 期地域福祉活動計画の中間評価会「生き生き死ねる島を考える集い」を開催、計画の進捗状況や課題・今後の方向性を参加者と共有した。

社会福祉協議会職員として地域福祉の重要性を確認した一方で、全ての職員が我が事として「暮らし」学び支えることの重要性を理解できていない現状もあった。

平成 30 年度は One for all All for one 「一人はみんなのために みんなは一つの夢のために」をスローガンに、何事にも“オールあま社協”で事業を展開し、職員の資質向上や島民の一人の夢のために活動することを基本方針とする。

## 【重点目標】

- “オールあま社協”で育て育ちあうことを意識し資質の向上を図る。予定されている介護浴室の改修は、わが事として職員で意見を出し合い、利用者が満足して入浴できるよう介護技術を身につける。入浴に関しては他事業所の見本となるような介護を目指し、海士町の福祉の魅力化を図る
- 海士の暮らしを学びながら“オールあま社協”で暮らしカレンダーを作成する
- 社会福祉協議会職員としての個々の意識を高め、住民の夢を叶えるための地域福祉活動（生涯現役活動や福祉学習、サロン活動等）や地域貢献活動を“オールあま社協”で企画し活動する
- 社協内はもとより他事業所との連携を強化し、合同研修会や他事業所人事交流や部署間交流、体験実習を行い資質の向上を図る。島外への先進地視察を行い、復命研修やワークショップ等を行い“オールあま社協”で共有する
- “オールあま社協”で海士町の福祉の人材や資質を確保するとともに資格取得などの支援を行う

## 【法人運営】

### ○キャリアパスシステムを確立

- ・採用 昇級 昇格試験の導入を検討しキャリアパスシステムを確立する

### ○質の高いサービスを提供できるよう安心して働き続けられる職場環境づくりの推進

- ・“オールあま社協”として研修や行事等を共有する仕組みをつくる
- ・定期的に全ての職員が集まりコミュニケーションがとれる場をつくる
- ・“オールあま社協”で地域のための活動（地域貢献）を行う

### ○情報発信の強化

- ・あま社協ニュースを見直し、住民の心にとまる広報誌を作成する
- ・ホームページや SNS 等で迅速な情報発信を行う

### ○予算管理の徹底

- ・予算管理のもと、理事会にて執行状況を報告し必要な軌道修正を行うことで安定した経営を行う
- ・インターネットバンキング導入検討する

## 【地域福祉】

### ○「困った」を見逃さない地域づくり

- ・実態調査、個別訪問、出前サービス等で実態把握に努め、気になるケースは包摂会議で事例検討を行い早期支援につなげる
- ・地域アセスメントを作成し地域の情報を収集、分析を行う
- ・日常生活自立支援事業の専門員や生活支援員を育成する

### ○住民の福祉観のさらなる醸成

- ・地域住民向けの福祉講座をシリーズで開催する
- ・“オールあま社協”はもとより、他機関と連携して成長段階にあわせた福祉学習を島全体で展開する
- ・ボランティアの見える化（広報・ブース等）に重点をおき、住民の得意を活かす体制をつくる

## 【在宅福祉（ヘルパー・デイサービス）】

○また利用したいと思われるサービスを目指し“オールあま社協”で資質向上を図る

- ・利用者一人の夢を叶えるべく、アセスメントを徹底する
- ・快適な入浴を提供するために、浴室の改修を行い入浴介助技術の向上を図る
- ・質の高いサービスを提供するために先進地の視察を行い、復命研修やワークショップなどを通じて全職員で共有する
- ・他事業所（諏訪苑や福来の里等）との交換留学を行い、島全体の質の向上を目指すと共に、外から見える社協を感じながら、技術習得や内部活性を図る
- ・部門内での交流会を定期的に開催し、意識や介護方法・支援の内容などを確認、統一のサービス提供を行う
- ・職員間のコミュニケーションに重点を置き情報のズレや漏れを無くす
- ・365日のニーズに対応できる職員体制の整備を図る

## 【生活支援ハウス】

○ K（家事） Y（役割） S（趣味） T（太陽）を感じる活動の推進

- ・地域の行事や季節行事に積極的に参加し四季を感じながら生活をおくる
- ・入居者の得意を活かし役割をもって旬の野菜や魚などの食材を調達する
- ・昔ながらの暮らしや食事を職員が入居者に学びながら一緒に調理する
- ・海士町の行事や旬なものなどが掲載された行事カレンダーを利用者と一緒に作成する

## 【居宅介護支援】

○介護保険制度改正に基づいた支援を行なう

- ・制度改正による介護サービスへの変化や現状を理解し、情報提供や相談に応じる
- ・地域包括支援センターや介護保険サービス事業所、医療関係機関等と情報を共有する
- ・地域ケア会議にて社会資源の活用や発掘等で困難事例の解決に向けケース検討・情報共有を行う

○介護支援専門員に求められる専門性を構築

- ・法令に則った帳票の作成や管理点検を行う
- ・事例をもとに対象の理解や生活支援の方法を学習し、アセスメントの視点を深める

○地域住民が安心できる総合相談を行う

- ・地域住民が安心して相談できる体制と環境を整える
- ・地区の民生委員やボランティア等からの情報・相談を受け必要に応じた訪問や活動を行う

## 【公益事業（福祉用具貸与）】

### ○福祉用具の見識を深める

- ・福祉用具に関する勉強会を開き、新商品などの情報を“オールあま社協”共有する
- ・利用者が複数の福祉用具を試行し、ニーズにあった用具を選択できる体制をつくる
- ・電動ベッド等の組み立て方を共有し“オールあま社協”で物品の搬出入ができるシステムを構築する

## 【保健センター】

### ○福祉と健康の総合デパートとして、福祉・保健の情報を提供し地域住民のふれあいの場とする

### ○設備管理・点検と実施し安全な運営を心がける

### ○福祉避難所として行政・地域住民と連携し備品の整備や災害時要援護者の支援を行う

## 【福祉従事者雇用促進拠点施設（チェダッテ）】

### ○地域の福祉推進拠点として地域に根ざした活動を行う

### ○福祉の学びや交流拠点として、住民や他機関と連携して活動を行う

### ○海士町の福祉の発信拠点として、視察の受け入れや島内外に情報発信を行う

